

近江の石工

令和6年2月発行

発行

滋賀県石材組合連合会

広報委員会

会長挨拶

滋賀県石材組合連合会会長 岡島 義孝



明けましておめでとうございます。皆様におかれましては健やかに新年を迎えたことと心よりお慶び申し上げます。旧年中は会員の皆様には当連合会の活動に対しまして格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で長らく続いた行動制限もようやく解かれ、以前のような社会活動ができるようになった変化の一年でありました。当連合会でも当初計画した事業全てを再開実施することができました。

技能検定は令和5年度前期「石張り」に2名の受験者があり、2回の講習会と実技試験を実施しました。今後も次世代の育成のため、少ない受験者であっても実施したいと考えます。コロナの影響で延期していた研修旅行は昨年11月に漸く実施することができました。呉市と広島市を研修先として大変充実した研修となり、会員間の親睦も深めることができました。コロナ禍でも唯一実施していました無縁佛石の受け入れと、無縁塚の清掃・法要事業は引き続き実施いたしました。今年度は墓壇の増設工事にも取り掛かることができました。

各事業を担当いただいた委員会の皆様、ご参加、ご協力いただいた会員の皆様に感謝を申し上げます。

また、全国石材技能士会令和5年度第31回通常総会が滋賀県草津市で開催され、多くの技能士の皆様に滋賀県へお越しいただきました。私も来賓としてお招きいただき、会員の皆様と本当に良い交流をさせていただきました。

行動制限は無くなりましたが、コロナの影響で人々の意識や行動は変化していると言われています。私の周りでも葬儀や法事は従来より簡易で小規模なスタイルに変化してきています。それは、コロナ禍で一時的なものではなく、一般化しそうに思われます。スタイルは変化しても故人に対する敬慕の念は変わらないと願いたいものです。墓石に対する意識も変化しているのかも知れませんが、ご先祖様を大切に想いお祀りする場所であることを忘れずにお墓に携わっていきたいと考えます。当連合会でもそこを意識して事業ができればと思います。また、来年50周年を迎えることになります。会員が一致団結して有意義な記念事業ができますようしっかりと準備をしていきたいと考えています。会員の皆様、石材業界の皆様にはこれまで同様ご協力を賜ります様お願い申し上げます。

末筆になりますが、皆様にとって本年が素晴らしい年となりますようご祈念申し上げまして挨拶とさせていただきます。

研修旅行 広島

研修委員長 德田 美喜男

本年度研修委員会におきましては、11月20、21日にかけて広島方面に研修旅行を15名の参加のもと開催させていただきました。新幹線で広島に着いてすぐバスに乗り換え、呉に向かいました。呉では、てつのくじら館(潜水艦の内部見学と潜水艦の資料館)、大和ミュージアム、港に停泊している軍艦を船の上からの見学をしました。その後広島に戻り次の日は、まず原爆ドームと広島平和記念資料館に行き、最後に宮島厳島神社に参拝をいたしました。

大和ミュージアム(呉市海事歴史資料館)においては、日本の軍需産業の歴史と呉という町の発展を見てきました。日本は、明治維新間もない頃から海外の技術を取り入れ瞬く間に自国において、軍艦を作り出せるようになりその後日露戦争に勝利する

礎を作りました。広島平和資料館においては、一瞬に多くの人の命を奪い、又世代を超えた後遺症で人々を苦しめる核兵器の威力とむごたらしさを見学しました。今世界では、プーチンや習近平などの独裁者が出ています。プーチンなどは「言う事を聞かないと核兵器を使う」など平気で言っています。今一度皆なが(平和と自衛)と言う事を考



えさせられる2日間でした。両日とも、これ以上ないという快晴で見る物すべて美しく特に宮島はきれいで最高の旅行日和でした。又、広島の名物料理も充分に堪能できた旅行でした。参加者の皆様、2日間お疲れ様でした。ご協力ありがとうございました。



令和5年度 技能検定

技能士部長 堀川 清文

今年度の前期技能検定は「石張り作業」を実施しました。コロナの影響で久しぶりの検定ですが受験者は2級2名の方が令和5年8月22日(火)滋賀県職業能力開発協会にて受験されました。講習会は7月4日(火)と7月27日(木)の計2回実施しました。

試験当日は二人共一生懸命に作業しておられましたがなかなか苦戦されていたように思いました。やはり講習会での教わったことをもとに繰り返し練習をすることが大切に思います。仕事と両立も大変ですが良い経験になりますので1級まで目指して頑張ってほしいと思います。

これからまた「石材加工作業」「石積み作業」の検定も実施されると思いますのでチャレンジして下さる受験者が増えることを願つ

ております。

今回の技能検定に暑い中技術指導や会場運営にご尽力いただきました組合員、青年部の皆様には心よりお礼申し上げます。



無縁塚清掃及び法要

福利厚生委員長 小山 秀人

9月26日(火)に、コロナ禍でも継続していました、無縁塚の清掃作業と法要を(有)平出石材工業様丁場跡において行いました。当日は14名の参加をいただきありがとうございました。

また草刈り機も多く持ってきていただき、生い茂っていた雑草もきれいに除去することが出来ました。

清掃終了後、宝篋印塔前において、無縁仏法要が執り行われ、参加者一人一人が手を合わせ終えることが出来ました。

またその際に、平出石材様のお客様の女性の方も、「墓じまい」したお墓の供養を見たい)ということで、一緒に法要に参加されました。

この先「墓じまい」は減ることなく、増え続ける一方だと思います。その時、お施主様に我々の取り組み・供養の在り方をきちんと説明せねばと、改めて感じさせていただきました。

この大切な事業の継続のため、今後とも、会員の皆様のご協力よろしくお願ひ致します。





青年部活動報告

青年部部長 山中 巍

令和5年度を振り返り、青年部の活動報告をさせていただきます。

先ずは2月17日第43回青年部総会ですが、まだこの頃はコロナウイルスが流行していた為感染拡大防止の観点から規模を縮小しての開催となりました。本来であれば委員長は毎年交代ですが昨年の活動がほぼできない状況でしたので、今年こそはと気持ちを改め昨年と同様の体制でのスタートとなりました。

5月に第1回目、7月に第2回目、9月に第3回目の青年部会議を開催しました。近畿地区青年部交流会や研修旅行、無縁塚整備作業などについてどの様な内容にすれば充実した活動ができるか皆で考え方を出し合い、話を進めていきました。

通年の活動となっています無縁塚整備作業ですが、二度目の受け入れに持ち込まれた無縁仏石の数が少なく、9月と年明け1月の二回の開催となりました。なかなか部員が集まらず少人数での作業となり、持ち込まれたすべての無縁仏石を並べることがで





きませんでしたが、なんとか基壇増設作業だけは終わらすことができました。

滋賀県で持ち越しとなっていました近畿地区青年部交流会では、10月に近江八幡にて八幡堀めぐりや八幡山ロープウェイなど近江商人の町を満喫する内容となりました。大阪、京都とたくさんの人々に参加していただき今まで以上に繋がりを深める有意義な交流会になったと思います。

12月には岐阜、愛知と一泊二日の小旅行でしたが数年ぶりとなる研修旅行に行きました。岐阜県では、ストーンミュージアム博石館を訪れ古くに使われていた石屋の道具や世界各地の珍しい鉱物、中津川市蛭川から産出される恵那石を見学し石屋として非常に学びのある研修になりました。

今年度は私を含む三名が卒業となり青年部部員は9名となります。ここ数年減少傾向ではありますが、なんとかこの先50周年を目指し偉大な諸先輩方が築いてこられた歴史と伝統を絶やさぬよう、滋賀県の石材業界を担う青年部のより一層の活発な活動に今後とも皆様のご指導、ご鞭撻いただけますようお願いいたします。

最後になりましたが、皆様に心より御礼を申し上げ、青年部の活動報告とさせていただきます。ありがとうございました。

